三重・田村西瀬古遺跡

1　所在地　三重県松阪市嬉野（旧一志郡嬉野町）田村

2　調査期間　一九九七年（平9）一〇月～一九九八年一月

3　発掘機関　三重県埋蔵文化財センター

4　調査担当者　萩原義彦・坂倉一光

5　遺跡の種類　集落跡

6　遺跡の年代　弥生時代～近世

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

田村西瀬古遺跡は弥生時代中期から近世にかけての複合遺跡で、伊勢平野のほぼ中央部を東流する三渡川左岸の自然堤防上に位置する。今回の調査は道路整備事業に伴うものである。

その結果、奈良時代から中世にかけての遺構を検出したが、少ないながら近世の遺構も確認した。

木簡は、土坑SK五一から一点出土した。土坑SK五一は、長辺二・八m短辺

（二本木）

○・九m深さ○・四mを測り、埋土は寛永通宝が出土したSK四と酷似している。木簡も出土状況からみて近世のものと推測される。

8　木簡の釈文・内容

(1)　・「伊□〔勢カ〕飯野郡　」　113×11×10　011

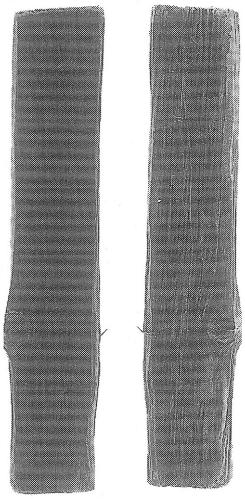
・「□□□〔屋カ〕□〔名カ〕」

板目材で短冊型を呈し、ほぼ完存する。墨書は、表裏とも明瞭である。飯野郡は現在の松阪市東南部、櫛田川下流域に位置する郡で、表面は住所を示しているとみられる。裏面は屋号＋名前を示すものと判断される。木簡としての用途は未詳であるが、持物札の類か。

なお、釈読にあたっては、斎宮歴史博物館の榎村寛之氏・田中久生氏のご教示を得た。

9　関係文献

三重県埋蔵文化財センター『田村西瀬古遺跡』（一九九九年）



（萩原義彦）